10th ANNIVERSARY KAMI CITY 2006-2016 香美市 合併10周年

香美市

未来を描く

香美市市勢要覧

香美市

未来を描く［目次］

03 共に生きる 香美市の自然の彩り

05 未来を描く―人
助け合いから生まれる田舎暮らしの未来

07 未来を描く―子育て環境
子どもたちの明日を描く

09 未来を描く―教育
学園都市 香美市をめざして

11 未来を描く―福祉
いきいきと美しく人生を描く

13 未来を描く―産業
香美市を描く無限大のチカラ

15 未来を描く―伝統産業
未来にはためく伝統産業フラフ
龍馬も愛した土佐打刃物

19 未来を描く―生活基盤
暮らしが充実 香美市のライフプラン

21 未来を描く―香美市での暮らし
誌上座談会

23 香美市産を take out

25 ふるさと香美市の歴史文化財

27 受け継がれる鼓動 ～伝統行事・年間行事～

29 市制10年のあゆみ

31 第2次香美市振興計画
美しく豊かな自然に育まれ、
共に支えあう
進化する自然共生文化都市・香美市
1 まちのかたちを創る
2 みどりを保つ
3 やすらぎを守る
4 賑わいを興す
5 未来を拓く
6 みんなで築く

39 市議会

40 姉妹都市交流

41 香美市 Information

香美市合併10周年記念事業の一環として、「これからの香美市への思い」を描いた“世界で一枚のフラフの原画”を募集。原画を作成している楠目小学校6年生のみなさん。

子どもから高齢者まで、

移住してきた人も、ずっと前から住んでいる人も

さまざまなスタイルで自分の生き方をデザインしていく。

やがて、一人ひとりのデザインは

地域を彩り、まちを彩り、

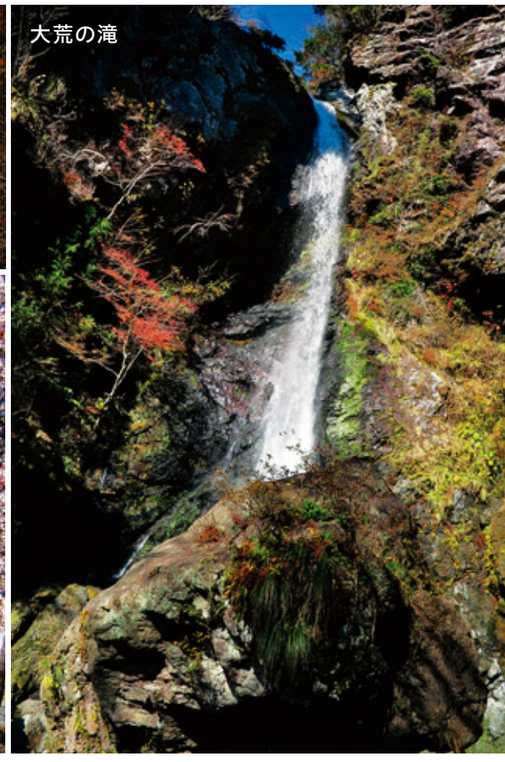
香美市の未来を描いていきます。

共に生きる香美市の自然の彩り

龍河洞

西熊渓谷

星空


大荒の滝

鏡野公園の桜

物部町頓定（とんじょう）のしだれ桜

里山の風景

べふ峡

あじさいロード

三嶺

澄んだ川の上には、満天の星空。
鍾乳洞は時の長さを語り、
山や棚田は季節の移ろいを知らせる。
ここは自然の彩りと共に生きる場所。

轟（とどろ）の滝

物部川

助け合いから生まれる田舎暮らしの未来

自分らしさが光る暮らしを描く

街

・里・山といった幅広いライフスタイルを選択できる香美市。空港や高速道路のインターが近く、特急が停車するJRの駅もある土佐山田町、アンパンマンミュージアムなどの施設がある香北町、山と川に囲まれ自然が豊かな物部町など、移住者の多様なニーズを満たしています。仕事は街で働く人もいれば、ゆず農家を始める人、工房の運営など里山での暮らしを楽しむ人もいます。地域の伝統文化や市民活動など地域との関わり、地域での子育てなどの助け合いがほどよく残り、孤立感もありません。そんな魅力から移住者が徐々に増え、過半数が移住家族となった集落もあります。おおらかな住民と、新しい風を運ぶ移住者によって新しい田舎暮らしの未来が切り拓かれています。

田舎暮らしでは助け合いの子育てでご縁を広げて

若い世代のゆず農家が増加中

高齢化率が30%までに減少した
大西集落

水と緑と空気、自然の美しさに感動して移り住む人が多い

未来を描く
子育て環境

子どもたちの明日を描く

子育て支援センター

市内には「子育てセンターなかよし」と「子育てセンターぴらふ」2カ所の子育て支援センターがあります。遊び場の開放や情報発信、育児相談、一時預かりなど、さまざまな支援を通して子育てを応援します。

全国的に危惧されている人口減少に歯止めをかけるため、香美市では出生率の向上を目標の一つとしています。そのためには、子育てしやすい環境を整えることが必要です。子どもを生み育てやすい環境を作り、地域の宝である子どもたちの未来を育んでいきます。市では相談事業を妊娠期から行うなど、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を行っています。また、保育園の待機児童の解消、医療費助成事業等経済的支援の充実の他、地域の子育て支援拠点の充実も図っています。市内に2カ所ある子育て支援センターは、アットホームな雰囲気で、気軽に親子で出かけやすいと人気です。また、市内にはアンパンマンミュージアム、豊かな自然環境やキャンプ場、木とふれあえる施設など、子どもの心と体を育む遊び場が充実しているのも魅力。支え合いや豊かな自然環境の中で、のびのびと子育てができます。

ママのサポートルーム

月1回の保健師、栄養士による育児相談

いつでも利用できる子育て相談

べふ峡キャンプ場

保育園や幼稚園の費用援助もあります

保育園に同一世帯から2人以上が同時入所していれば第二子の保育料が半額となる制度や、幼稚園就園奨励費などの援助を行い、子育て家庭の経済負担を軽減しています。

支援も遊びも充実 子育て中でも暮らしやすい

高知県立森林研修センター情報交流館

高知県立甫喜ヶ峯森林公園

アンパンマン図書館

秦山公園

香美市立やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム

やなせたかし記念館内にある施設。絵本原画やイラストが展示されており、市内の子どもには入場無料券が配布されています。ミュージアム前の広場も開放的な遊び場として人気です。

アンパンマンが暮らす町を
ミニチュアで再現したジオラマ

© やなせたかし／フレーベル館・TMS・NTV

未来を描く
教育

学園都市香美市をめざして

大学のあるまちで創造される教育環境

保・幼〜大学まで

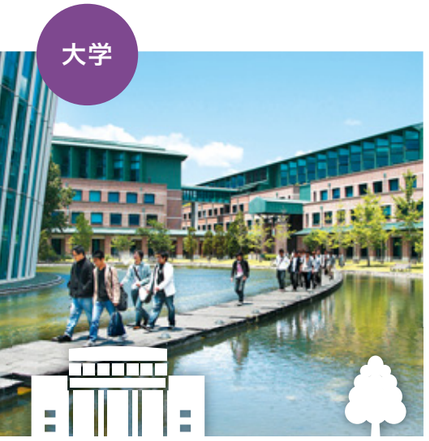
香美市には保育園7園、幼稚園2園、小学校7校、中学校3校、特別支援学校1校、高等学校1校、大学1校がそろい、市内で充実した教育を受けることができます。

理科教育に力をいれている片地小学校

豊かな自然の中で学ぶ大栃小学校

英語を楽しく身につける大宮小学校

保育園・幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校・高等学校・県立大学といった教育機関がそろうのは高知県内でも香美市を含む3自治体のみ。中でも高知工科大学は研究学園交流拠点として、特徴のある大学の一つです。この恵まれた環境を活かして、各種教育機関の連携を密にし、連続して子どもの育ちを保障する教育を行う「香美市学園都市構想」があります。例えば、香美市では家庭・学校・地域が連携して進めるキャリア教育を「よってたかって地域が育てる教育」と銘打ち、市内の全小中学校で一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力や態度を育てる教育に取り組んでいます。また、保・幼・小が連携して幼児と児童の交流を図り、就学前教育と小学校教育を円滑につなぐなど、教育環境の充実に取り組んでいます。



学校サポーター制度

高知工科大学教職課程で行う、高知県内の小中高校と連携した制度です。教職課程を履修している学生が学校現場に出向き、長期的に学習指導などの交流を行っています。学生は子どもたちとふれあうことで大きく成長します。

地域活性化につながる商品開発

山田高校商業科が、地域の伝統工芸品「フラフ」を再利用した商品開発に取り組みました。家庭で使われなくなったフラフを、衣類やバッグなどにリメイク。完成品は地域のイベント等で販売し、地域の活性化につながっています。

山田高校ボランティア

地元小学校への学習サポーターとしての生徒派遣、保・幼、高齢者福祉施設でのボランティア活動など、地域に信頼される学校づくりの取組として、全校生徒が1年間に1回以上、地域貢献・ボランティア活動に参加しています。

香美市子ども会議

小中高合わせて11校から31人の児童生徒が参加。学校やまちをより良くする会議を行った結果、地域行事や香美市の歌などが誕生。子どもたちの意見がまちづくりに反映されています。

香美市KYO子どもまつり

香美市学園都市構想

小・中学校、高校、大学が共同で教育を創造して取組を進めています。香美市子ども会議、理科クラブや天文教室、キャリア教育、教科研修、部活動交流などを通して、地域と学校の距離を縮め、学力・体力や郷土への愛着の向上、高知工科大学へ進学する香美市出身者数の増加といった目標を掲げています。

乳幼児健診

地域サロン（山田サロン　ボランティ家 てとて）

認知症を知る教室「ろばろば」

認知症が気になる方や、予防したい方を対象とした認知症教室を開催しています。家族の認知症への相談にも応じています。

交流やボランティア活動の場となる地域サロン

食生活改善推進員による食育活動

学校や保育園、地元量販店での食育推進活動、地域の公民館などでの地区伝達活動などを行い、地域の方々の食を通じた健康づくりに取り組んでいます。

住み慣れたこのまちで ずっと暮らせる幸せ

誰もが主体的な健康づくりをすることを基本に、妊娠期から介護予防まで継続した支援を展開する香美市。妊婦相談や乳幼児健診の実施、中学校3年生までの医療費の助成、特定健診の無料化や介護予防事業などを実施しています。見守りや支え合いを行う地域づくりを目的とした「あったかふれあいセンター事業」では物部町、香北町、土佐山田町の3カ所で地域サロンを開催。高齢者や子どもまでさまざまな住民が自由に立ち寄ることができる場を提供しています。他にも健康習慣づくりやパソコン教室なども実施。ライフステージに応じた医療・保健・福祉サービスが充実する香美市には、安心して自分らしい生活を送ることができる環境が整っています。

乳幼児・児童医療費助成制度

香美市では、市内の中学校3年生までの乳幼児・児童の通院または入院でかかる医療費を助成しています。所得制限や自己負担のない、子育て世帯を支える制度です。

特定健診自己負担金無料

健康のために、1年に1回の受診を勧奨している特定健診。国民健康保険に加入している方なら無料で受けることができます。

健康手帳

介護予防事業

地域包括支援センターを拠点に、ウォーキングなどの健康習慣づくりや、パソコン教室などの生きがいづくりを推奨しています。

未来を描く
産業

香美市を描く無限大のチカラ

全国ブランドのゆず地域の力を集約してもっと振興させたい

ゆず農家　山﨑（やまさき） 吉生（よしお）さん

JAとさかみゆず生産部会副部会長。地元出身者で一旦は県外に出たが24歳でのUターンをきっかけに家業を継ぎ、26歳で独立。

実家が農家で、Uターンした年にゆずを栽培していたため、ゆず農家の道を歩みはじめました。今、香美市物部町は、県内では生果ゆず60％のシェアを誇る、生果ゆずの一大産地となっています。急傾斜地が多く水はけも良い、ゆず栽培に適した地形で育ったゆずは、出荷後傷みにくいという特徴もあります。ゆずの生果そのものを出荷する「玉出し」は、皮に傷がないことや形の良さなど、高品質が絶対条件。私たちは全国ブランドの生果ゆず産地として高品質な玉出しにこだわり、ブランドの維持、発展を図るよう日々努力しています。とはいえ、この品質・生産量を確保することも課題となっています。私もゆず農家として30年を超え、高齢化の波を感じています。180名ほどの農家のうち、30代40代の若手が20人ほど。後継者を育てる取組に力を入れる他、改植により園地を若返らせることで品質向上につなげています。

若手のみなさんには、この40年間変わらず受けている評価を維持しつつ、時代に合った挑戦を期待したいですね。物部町のゆずでなければ欲しくないといわれる品質を受け継いでほしいです。生果ゆずは品質にこだわる分、栽培も大変ですが、その分やりがいもあります。今後も地域全体で、高品質のゆず栽培を進めていきます。

「物部のゆずブランドは絶対に守りたい」と熱く語る山﨑さん

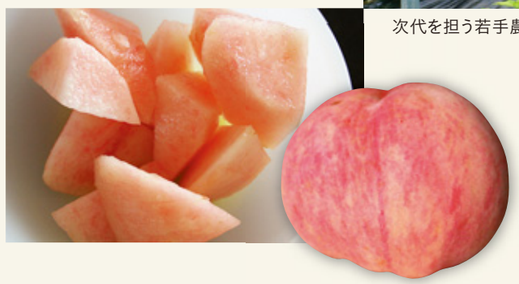
主に東京、名古屋、大阪方面で販売されるゆず玉の出荷量は日本一

Interview

繁藤ストックヤード

次代を担う若手農家

予約注文だけで売り切れる
幻の桃「かりかり桃子」



若手の力を地場産業の振興へ

出荷量日本一を誇るゆず玉をはじめ、食感が特徴の桃「かりかり桃子」、ニラ、やっこねぎ、大葉などの農業や林業といった産業が根付く香美市。移住体験やゆず狩りなどの体験型観光、補助金制度の充実、県が開校する「高知県立林業学校」、林業就業支援講習の実施などで、担い手の育成とさらなる産業振興をめざし、近年、若い農業者の活躍やUIターン者の新規就農者が増えつつあります。また、高知工科大学や高知テクノパークといった、新たな産業の活性化に取り組む大学や工業団地があるのも特徴です。高知工科大学では県内の方と地域活性化について意見交換を行う「地域連携カフェ」や、外国人観光客向けの龍河洞多言語案内アプリの開発などが実施されるなど、豊かな資源に若手の力が加わり、産業の可能性が大きく広がっています。

高知工科大学の学生が龍河洞多言語案内アプリを開発

高知テクノパーク

地域活性化を学ぶ地域連携カフェ

未来を描く
伝統産業

未来にはためく伝統産業フラフ

大空に舞うフラフ

さまざまな色がそろう染料

フラフ

「元気に育て」の思い 鮮やかに舞う

5月を迎えると、鯉のぼりと共に端午の節句を祝うフラフが空を舞います。男の子の成長を願い祖父母や親から贈られるもので、高知県中東部の家庭では一般的です。その起源は明治初期で、語源は諸説ありますが、英語の「フラッグ（旗）」が土佐流になまって「フラフ」と呼ばれるようになったといわれています。染め物に適した自然の流水物部川の存在、大きくはばたく豪快さが高知県民の人柄に合ったことなどから土佐山田町の伝統産業として築かれてきました。一枚一枚手作業で絵を描くフラフは、染付の最盛期ともなると早朝から深夜まで作業が及ぶこともあります。近年ではフラフの技術を活用し、のれんやタペストリーなど現代の住宅事情にあった作品が作られている他、香美市合併10周年記念のフラフ作成や、地域の子どもクラブが手染めによる旗を作るなど、フラフの伝統を次の世代へ伝えるための取組も行われています。フラフには、いつの時代も多くの家庭の喜びと願いが込められています。

時代で変わるフラフの絵柄

伝統産業であるフラフにも時代による変化があります。金太郎や七福神などの伝統的な絵柄の他、親の職業や趣味を反映した絵柄も人気です。

作業工程

色止め

乾燥させながら色を止めます。この後、水洗いと縫製をして完成です。

背景染め

布を湿らせて、同じ系統の色でグラデーションをつけていきます。

さし染め

発色を良くするために水引きをしてから、はけで染めていきます。

のりづけ

もち米汁で作ったのりで、下絵を写しとるようにして描きます。

子どもたちに受け継がれる染色文化

染色技術や絵柄を活かした製品も

水洗いでのりを落とせば、色の境目に白が浮き出る

未来を描く
伝統産業

龍馬も愛した土佐打刃物

当時と同じ工程で一本一本手作りを続ける

江戸時代初期から伝わる高知県を代表する伝統工芸で、ふるさと納税の返礼品としても人気の土佐打刃物。かの坂本龍馬の愛刀「吉行」も土佐打刃物といわれています。戦国時代、武具刀剣の需要に伴い打刃物が広がり、林業が盛んだった高知県では、山林伐採に必要な打刃物が生産されました。土佐打刃物は、硬度の異なる素材を合わせ、熱し打ち伸ばし広げていくことで鍛えます。丹念な手作業による、折れず曲がらずの逸品は全国にその名をとどろかせました。現在でも、職人の手作りによる品質の良さが注目を集めています。職人の平均年齢が上がる一方、土佐刃物二世会の若手も負けていません。子ども向けナイフの商品開発や、香美市の鍛冶職人たちによる刃物ブランド「火床」の創設など、伝統製法を活かした新しい試みも進められています。

協同組合
土佐刃物
流通センター

刃物まつり

実演見学

協同組合土佐刃物流通センターには
さまざまな種類の鎌や包丁が並ぶ

土佐打刃物

土佐打刃物の主要な製品は、鎌・鉈（なた）などの農耕具でした。近年では包丁や園芸用刃物などニーズに応じて幅広く展開しています。

くじらナイフ

日本刀の作刀技術から生まれた製造方法で、形状を自由自在に造り上げることができ、土佐の自由鍛造と呼ばれます。あらゆる大きさ、硬度の異なる素材を合わせ、丹念に打ち伸ばし鍛えていきます。

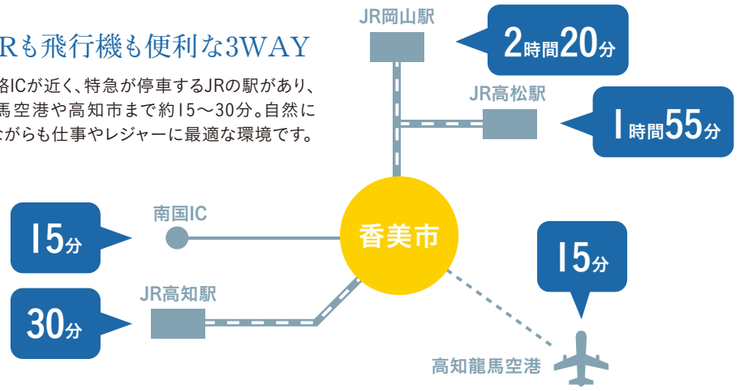
暮らしが充実 香美市のライフプラン

高知市まで30分の、便利さと賑わいのまちで暮らす

高速道路のICが近く、特急が停車するJRの駅もあるため、高知龍馬空港や高知市までは約30分と、交通アクセスは抜群です。日々の買い物は地元産の野菜が取り扱われる大型スーパーや商店街へ。商店街全体が昭和に染まる「ゑびす昭和横丁」が開催されるなど、活力に満ちたゑびす商店街もあります。平成26年からは山間部の高齢者の通院や買い物支援としてデマンドバスの運行も開始しています。街・里・山があり、高知市のベッドタウンから自然豊かな中山間地域と、住む場所の幅も広く、多様なライフスタイルが選択できるまちです。

車もJRも飛行機も便利な3WAY

高速道路ICが近く、特急が停車するJRの駅があり、高知龍馬空港や高知市まで約15～30分。自然に囲まれながらも仕事やレジャーに最適な環境です。



キャラクターごとにデザインされた
アンパンマンバスがお出迎え

通勤・通学客が行き交う
JR土佐山田駅

昭和の商店街イベントが好評のゑびす商店街

地域の活動拠点「ふらっと中町」

スーパー バリューでは地元産の
安心・安全・新鮮な野菜等が豊富

未来を描く

香美市での暮らし

NPO法人いなかみ
近藤 純次さん
愛媛県出身。高知市内での就職を経て香美市へ。現在は移住定住交流センターにて、移住者サポートを行う。

高知工科大学２回生
上村 裕之さん
兵庫県出身。大学ではプログラミングを専攻。数学教師をめざしながら、防災ボランティア団体に所属する。

香北町移住者
辻井 幸（ゆき）さん
神奈川県出身。東日本大震災を経験したことで住まいや暮らしの価値観が変わり、家族で四国へ移住した。

香美市役所定住推進課
公文 直樹（くもん）さん
物部町出身。子どもの頃から過ごしてきた郷土で、市役所職員として定住促進に励む毎日。家族5人暮らし。

誌上座談会

香美市で暮らす魅力を語り合う

香美市の住み心地

上村さん　私は大学入学を機に香美市に来ました。まだ住んで2年目ですが、人柄があたたかいなと感じています。釣りなど自然の楽しみ方も分かってきたところです。

辻井さん　私は最初、徳島県に移住しました。覚悟の上ではあったものの、子どもが少ない地域だったため、子育ての難しさを感じていました。そんな時、香美市の子育て環境に惹かれて、空き家バンクで家を見つけることができたため今に至ります。

近藤さん　私は土佐山田町で暮らしていますが、子育ての利便性は高いですよね。自然も街も近くにあって、学校も病院も近い。地域の方が子どもに声かけをしてくれるなどの関わりもありますし。

公文さん　私の住む物部町は山間地域ですが、四季の移ろいを体感できることと、近藤さんと同じく地域の方が子どもをよく見てくれる安心感が魅力です。地域の方々の顔が分かる、ちょうどいい故郷だと思います。商店街や診療所、郵便局や農協支所から銀行代理店もあって、生活の不便はないですね。

辻井さん　産後すぐに車であちこち移動しないといけない生活は厳しいと考えていたのですが、今の住まいなら何でも徒歩圏で済むんです。本当に助かります。

会場はコチラ！

香美市立移住定住交流センター

平成27年7月にオープンした、香美市の移住相談窓口となる施設です。旧佐岡保育園の園舎をそのまま利用しており、広いホールや園庭などの交流スペースも豊富。地域住民や移住者との交流、地域の集いなど、さまざまな拠点として活用されています。

充実の教育環境

公文さん　子どもは高校生一人と中学生二人で、全員地元の学校です。香美市には公立大学まで教育機関がそろっていて、小学校と大学が連携して地域学習を行うなどさまざまな教育に熱心ですよね。地元から高知工科大学に進む子どもを育てる取組もあります。仕事柄、移住促進の話をする際にも、この連携した教育体制はおすすめしています。

上村さん　小学校との関わりの他、山田高校とも2年ほど前から関わりを持っています。防災イベントに協力していただいた縁で、お互いのイベントを手伝う関係になっています。

近藤さん　どの学校も特色を出した教育に取り組んでいて、地域住民と連携した体験学習や、地元食材をつかった食育など、魅力的な授業がたくさん。学校を訪問して話を聞いたら、校長先生の学校自慢が止まりませんでした。

地域や学校のつながりを大切にしていきたい

防災を通じて地域や学校と関わっていきたい

地域との関わり

辻井さん　上の子が小学1年生なんですが、学校と地域の関わりが強いですね。夏休みにサマースクールという、山田高校が主となって異年齢で交流する機会を作ってくれたり。中学生から大学生、地域の方とも触れ合えるって、恵まれた環境ですよね。引っ越してきた私たちが地域に馴染むきっかけにもなりました。

上村さん　大学では、高校と地域との関わりも多くなっていますが、さらに地元との連携に力を入れたいと考えているので、日頃お世話になっている市役所とも協力して地域の防災マップを作るなど、地域との連携を増やしていければと考えています。

公文さん　高知工科大学は、地元住民と協働してさまざまな地域活動をしてくれたり、山田高校は特産品開発をしてくれたりと、学校がすごく地域に溶け込んでいます。このつながりは大事にしていきたいですね。

辻井さん　そういった講座やイベント情報も、いなかみさんのホームページや広報の他、子育てサークルや子育て支援センターからメールなどで教えてもらえるので、助かっています。市内で同年代の子どもを持つお母さんと親しくなることもできましたし、市民としても何かと地域に関わる機会があるなと感じています。

生活の利便性が子育て中の私にはありがたいです

これからの暮らし

公文さん　物部町は地域のつながりが強い反面、急速な人口減少が課題です。今の保育園や小中学校を次世代に残せるよう、新しい人にも移住してもらいながら、地域出身の人が帰ってこられる場所として維持したい。市役所職員であると同時に、物部町の住民として地域存続に関わっていきたいです。

上村さん　香美市は、多地域の人が集まる大学がある環境が魅力だと思います。私は県外出身者ですが、進学を機に地域の魅力を知ったことで、香美市で教師の夢も叶えたいと思うようになりました。

辻井さん　地域に馴染む学校があって、地域の方のさまざまな力を活かせている環境がある場所ですよね。これからも地域の力を使って、子どもたちを育めるまちになったらいいなと思います。

近藤さん　移住者の方たちは、仕事と暮らし両方を大切にしている方が多いと感じます。好きなことを仕事にしたり、普段は買っているものを自分で作ってみたり。これって田舎だからこそ実現できるライフスタイルですよね。そんな移住者のみなさんや地域のみなさんと一緒に、現代に合った香美市らしい暮らしを創造していければと思っています。

暮らしも仕事も両方を充実させる輪を広げたい

住民のみなさんが描くそれぞれの夢を伺うことができました。
生活の場として、故郷として、まだまだ香美市の可能性は広がるばかりです。

香美市産を take out

体にやさしい自然育ち

田舎寿司

タケノコやこんにゃく、ミョウガなど山里の旬を味わえるヘルシーなお寿司で、寿司飯には特産のゆずが効いた郷土料理です。道の駅やスーパーで日常的に販売されています。

ニューフェイス！

高校三年生の山田まん

山田高校商業科の生徒が地域に貢献したいという思いから、特産品であるショウガを使って開発。きざみショウガ入りの白あんが竹炭入りのしっとりした生地で包まれています。

アユ・アメゴ

清流物部川に育まれた川の幸で、シーズンともなると全国から釣り人が訪れます。市内各所では、塩焼きや姿寿司などの郷土料理が並び、人々に旬の味わいを届けてくれます。

ゆず加工品

ゆず玉出荷量日本一を誇る香美市のゆずを使った加工品です。ゆずドリンクやほんのり塩味の効いたマーマレード、ゆず皮のピールなど、産地ならではの製品がそろっています。

木工品

面積の87.6%を森林が占める香美市では、林業も盛ん。クルミ工房をはじめ市内の工房で、熟練の職人が手がけた家具やインテリア雑貨などの木工品は、全国で高い評価を得ています。市内では間伐材を活用した木工体験もできます。

清流物部川や森林に包まれた香美市には、さまざまな特産品があります。中でも川の幸と山の幸は、まさに大地の恵み。新鮮で体にやさしい自然の味です。昔ながらの郷土料理だけでなく、ゆず玉の加工品、シカバーガー、ショウガを練りこんだ高校三年生の山田まんなど特産品を活かした新しい商品開発も盛んで、地元の道の駅や山田の日曜市などでも人気です。食の魅力をもっと広げるため、新商品の開発や各種イベントへの出店、アンテナショップへの紹介といった販路開拓を行っています。

シカ肉料理

山を守り、シカ肉のおいしさを伝えるため、シカ肉をソーセージなどの加工品や飲食店メニューで提供しています。シカバーガーや「土佐の食Iグランプリ」でI位に輝いたシカドッグがあります。

シカ肉加工品

シカバーガー

なつかしメニュー体験なら

農林漁業体験実習館

豆腐、こんにゃく、手打そばなど
田舎料理の体験

忘れつつある里山の暮らしを次世代へ語り継ぐことを目的に、豆腐・こんにゃくづくり、そば打ちなどの「里山の味作り体験」やクラフト体験、歴史民俗資料の展示スペースがあります。香美市の里山の暮らしを、見て・ふれて・体験することができます。

新鮮野菜・果物

ゆずや「かりかり桃子」の他、お米や苺、ニラ、ショウガなど、ハウス栽培も含めた農業が盛んな地域のため、一年を通して新鮮な野菜や果物を手に入れることができます。

take out

自然に育まれた食材や
手作りの逸品を求める方が集まり
いつも賑わうスポットです。
香美市の魅力をぜひどうぞ。

道の駅 美良布

プールやサウナを備えた「健康センターセレネ」、農産物等の販売「韮生の里美良布直販店」、「アンパンマンミュージアム」などがあり、平日休日を問わず賑わいを見せています。

香北町良心市利用組合

昭和56年から開設されている、安さと新鮮さが売りの施設です。備え付けの棚に、野菜や花木、工芸品などが並ぶ店構えからは、昔ながらの良心市の趣を感じることができます。

奥物部ふるさと物産館

レストラン「よってこ物部」と「奥物部美術館」、「ふるさと市」があります。懐かしいふるさとの味を楽しみ、芸術にふれ、地場産品を手にとれる、奥物部をまるごと体験できる施設です。

ふるさと香美市の歴史文化財

先人の面影と歴史の物語を知る

自然が作り上げた文化財や、数々の歴史人の築き上げた足跡が至るところに残る香美市。龍河洞は自然の雨水が石灰石を侵食した洞窟で、当時の人が生活した跡に置き忘れた土器「神の壺」が古代へのロマンをかきたてます。その他、県指定天然記念物としては最大級の大日寺の大杉など、時間が創造した自然美は圧巻です。学問の神としてあがめられる谷秦山や、300年以上の長期にわたって物部川の水を取水し農業の発展に寄与した野中兼山、兼山の娘で医者として活躍した婉（えん）、歌人として活躍した吉井勇など、賢人との関わりも深く、その軌跡を辿ろうと、今も多くの人が訪れています。一度は廃れた塩の道を整備し、復活させる取組などもあり、文化財は色あせることなくはるか古の歴史を伝えてくれています。

龍河洞

日本三大鍾乳洞の一つです。全長4kmにも及ぶ洞窟は、雨水が1億7,500万年の年月を経て石灰石を侵食したもの。弥生時代中期後半の遺跡もあります。国指定文化財（史跡・天然記念物）。

山田堰跡

野中兼山の偉業の一つです。物部川の小田島ー神母ノ木間（327m）に築かれた大規模な農業用水取入堰跡で、現在は緑地公園として憩いの場となっています。疏水百選指定。県指定文化財（史跡）。

谷秦山墓所

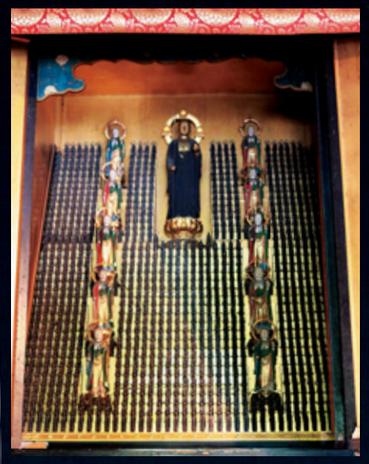
秦山（本名：重遠）は山崎闇斎の門人で、土佐南学の最高峰となった人物です。学問の神として信仰を集め、受験の合格祈願に訪れる人々が後を絶ちません。国指定文化財（史跡）。

野中神社

野中兼山の四女で医者として活躍した婉（えん）。誇りであった父を祀るため、父の旧臣・古槙氏とともに宝永五（1708）年に建立しました。通称「お婉堂」。市指定文化財（史跡）。

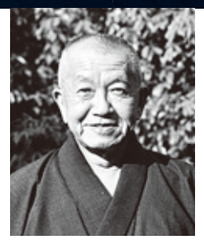
大川上美良布神社の銅鐸

川上様として知られる名社の社宝です。雨乞い神事に使われたといわれる、高さ75.7cmと67cmの大小2基の袈裟襷文（けさだすきもん）銅鐸があります。県指定文化財（考古資料）。



高照寺木造地蔵菩薩立像

厨子（扉付きの箱）に36の段を作り、36cmの中尊と、19.2mmの像を配置。その間に6cmの小像が1,000体配列された、中世の造仏資料として貴重なものです。県指定文化財（彫刻）。



歴史人紹介

YOSHII ISAMU

吉井 勇

明治19（1886）年～昭和35（1960）年

人間修行の日々をこの地で

明治・大正・昭和の三時代にわたり文芸界で活躍した歌人です。猪野々で隠棲したのは3年間のみでしたが、猪野々での暮らしは「人間修行の日々を過ごした」と振り返るほど、人生において最も悩み、己を見つめ直した場所でした。

渓鬼荘（国登録有形文化財）

歌碑

大日寺の大杉

香美市物部町神池地区の大日寺境内にある大杉です。樹高約60m、目通り周囲約9.4m、樹齢800年と推定されています。県の指定天然記念物としては最大級となっています。

川上様夏祭り

香北町の夏の風物詩ともいえる夏祭りです。模擬店やステージの他、巨石を持ち上げる力石かつぎや相撲大会、うなぎつかみなど、子どもから大人まで誰もが楽しめる夏のひとときです。

祈祷舞神楽を練習する小中学生

土佐塩の道 30kmうぉーく

塩を運ぶため人々が往来した道を辿る歴史深いウォーキングコースを歩くもので、年々参加者が増える人気のイベントです。地元の人たちによって整備・維持された快適なコースです。

受け継がれる鼓動

大人も子どもも一つになり まち中が熱気に包まれる日

伝統的な行事が多く受け継がれる香美市。中でも特徴的なのは、香美市物部に守り伝えられてきた「いざなぎ流」と呼ばれる民間信仰で、その起源は平安末期頃にさかのぼるともいわれています。いざなぎ流御祈祷は国の重要無形民俗文化財にも指定され、地域の小中学校でも祈祷舞神楽が継承されています。他にも、棒打ちやみこし行列などの「おなばれ」が行われる大川上美良布神社の秋季大祭などが今に残っています。また、地域を盛り上げる行事も盛んです。市内外のチームがよさこいなどで盛り上がる土佐山田まつり、子どもの文化発信としてステージイベントや体験ブースが並ぶ物部川こども祭、ユニークなかかしが勢揃いする刃物まつりでの山田のかかしコンテスト、湖面に5000個もの灯篭が浮かぶ中、夜空に大輪の花火が開く奥物部湖湖水祭、力石をかつぎに力自慢が集まる川上様夏祭り、歴史を感じる土佐塩の道30kmうぉーくなど、一年を通して大人も子どもも楽しんでいます。行事の新旧に関わりなく、地域に受け継がれる鼓動がまちを一つにしています。

伝統を受け継ぐ 鳴子製作 やまもも工房

よさこいで欠かすことのできない、よさこい鳴子の工房。職人の技が光る手作りの鳴子や提灯などで、地域の伝統を支えています。伝統的な鳴子の配色をオリジナルの配色で展開した先駆者でもあり、平成25年には合併推進体制整備費補助金で香美市の新しい鳴子も製作しました。

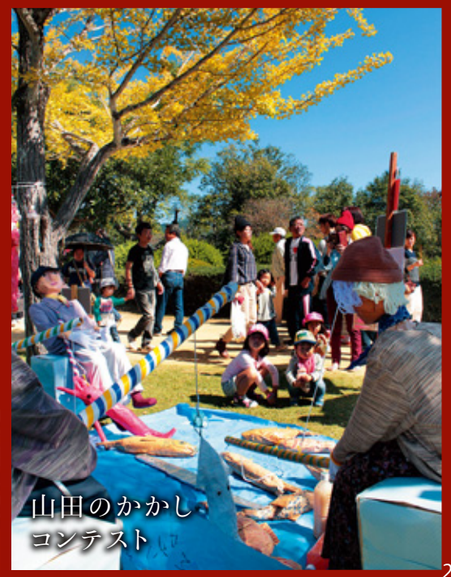
大川上美良布神社
―おなばれ―

いざなぎ流
―祈祷舞神楽―

物部川こども祭
―ステージ―

土佐山田まつり
―よさこい―

奥物部湖湖水祭



山田のかかし
コンテスト

市制10年のあゆみ

土佐山田町・香北町・物部村の合併により平成18年3月、香美市が誕生。一つのまちとして発展を進めてきた10年の軌跡を紹介します。

平成18年(2006)

- 3月 3町村が合併し、香美市が誕生
- 4月 初代市長に門脇槇夫氏が就任
- 4月 市立図書館香北分館が『子どもの読書活動優秀実践図書館文部科学大臣賞』を受賞
- 7月 アンパンマンミュージアム開館10周年
- 11月 香美市イメージキャラクターが誕生
- 11月 土佐山田町出身の漫画家・はらたいらさん死去

平成19年(2007)

- 7月 廃校を利用した地域交流施設・ほっと平山がオープン

平成20年(2008)

- 2月 大宮小学校新校舎が完成

平成21年(2009)

- 3月 福井県あわら市と姉妹都市協定を締結
- 4月 山田保育園・楠目保育園・明治保育園を統合し、なかよし保育園と子育てセンターなかよしが開園
- 香北の自然公園が完成

平成22年(2010)

- 2月 姉妹都市締結40周年を記念し、香美市訪問団が米フロリダ州ラーゴ市を訪問
- 3月 大栃高校が山田高校と統合
- 4月 香美市いんふぉめーしょんがオープン
- 4月 土佐山田・香北・物部の消防団が合併し、香美市消防団が発足
- 5月 香美市自主防災組織連絡協議会を設立
- 物部町神池にヘリポートが完成

平成23年(2011)

- 4月 さくら保育園・じんざん保育園を統合し、あけぼの保育園が開園
- 5月 香美市新庁舎が完成
- 6月 龍河洞開洞80周年記念シンポジウムを開催
- 7月 繁藤山崩れ殉職・殉難者追悼慰霊祭40回忌大祭

平成24年(2012)

- 9月 清流めぐり利き鮎会で物部川の鮎が日本一
- 10月 北海道積丹町と災害時相互応援協定を締結

平成25年(2013)

- 2月 香美市防災備蓄倉庫が完成
- 4月 香美市民憲章を制定
- 逆川農業集落排水施設が供用開始
- 6月 逆川保育園が廃園
- 佐岡保育園が廃園
- 11月 特別養護老人ホーム韮生郷が完成
- 物部町五王堂にヘリポートが完成

平成26年(2014)

- 4月 大栃簡易水道(楮佐古地区)給水開始
- 7月 香北B&G海洋センターがリニューアルオープン
- 10月 香北町出身の漫画家・やなせたかしさん死去
- 11月 あけぼの街道が全線開通

平成27年(2015)

- 4月 法光院晶一新市長が就任
- 7月 土佐山田学校給食センターが完成
- 8月 台風12号による豪雨に伴い、香美市で初めて避難勧告を発令
- 9月 キャラクターナンバープレート交付開始
- 10月 佐岡小学校が廃校
- 11月 香美市立美術館開館20周年

平成28年(2016)

- 1月 宝町体育館の改築が完成
- 3月 渓鬼荘が国登録有形文化財に登録
- 物部町岡ノ内にヘリポートが完成
- 繁藤ストックヤードが完成
- 4月 ほきやま簡易水道(平山地区)給水開始
- 6月 香美市消防新庁舎が完成
- 7月 香美市立移住定住交流センター設立
- 11月 香美市役所香北支所の新庁舎が完成
- 12月 土佐山田駅開業90周年記念イベントを開催
- 第10回全国学校給食甲子園決勝大会で、香北学校給食センターが入賞
- 3月 香美市合併10周年記念式典を開催
- 7月 アンパンマンミュージアム開館20周年
- 12月 香美市役所物部支所の新庁舎が完成

平成27年6月
香美市消防新庁舎が完成

平成26年9月
キャラクターナンバープレート交付開始

平成23年5月
香美市新庁舎が完成

平成21年4月
香北の自然公園が完成

平成18年3月
3町村が合併し、香美市が誕生

平成28年7月
アンパンマンミュージアム開館20周年

平成25年11月
あけぼの街道が全線開通

平成22年4月
香美市いんふぉめーしょんがオープン

平成19年7月
ほっと平山がオープン

10周年記念イベント

平成28年10月30日、音楽などのステージ、写真展、マルシェなど、多くの市民で賑わうイベントを開催。みんなで香美市の10周年を祝いました。

オリジナルフレーム切手

合併10周年を記念して、香美市内の見所とイメージキャラクターがあしらわれた切手が登場。高知県内の全郵便局で販売されました。

オープニングセレモニー

記念式典のオープニングセレモニーでは、市内の小中高生が作詞した香美市の歌を披露。作曲を担当した堀内佳さんも駆けつけてくれました。

記念式典

10周年記念
表彰の様子

当日の
式次第

平成28年3月5日、香美市合併10周年記念式典を開催。市の振興に寄与された方の表彰などで香美市の発展を振り返り、市のさらなる前進を誓いました。

平成28年3月、香美市は合併10周年を迎えました

第2次香美市振興計画

市民と行政が共にめざす まちづくりへ

振興計画とは、香美市のめざすまちづくりの方向性や基本理念、将来都市像などを示した「基本構想」と、各種政策を体系化した「基本計画」で構成された、まちづくりの指針となるものです。合併時に策定された「香美市まちづくり計画」を基に、第1次香美市振興計画を策定し、香美市のまちづくりが進められてきました。市民と行政、みんなで築くまちづくりといった方向性や現在の社会経済情勢を踏まえ、新たに平成29年度から38年度までの10年間を期間とする第2次香美市振興計画が策定されました。5年ごとの基本方針を示す「基本計画」では、さらに3年ごとの「実施計画」を、毎年度見直しながら計画を進めていきます。

まちづくりの方向性

1 地域のよさを大切にするまちづくり

各地域で受け継ぎ、育まれてきた伝統文化や地場産業などは地域の魅力や個性です。その輝きを大切に継承し、美しい街（市街地）、美しい里（集落）の魅力が一層輝く居心地の良いふるさとをめざします。

2 みんなが元気に暮らせるまちづくり

人と地域が支え合って培ってきた暮らしを大切にし、教育・福祉・医療の充実、産業振興を図ります。安全で快適、便利で賑わいがあり「住んで良かった、住み続けたい」と思える活力あるまちをめざします。

3 みんなで共に進めるまちづくり

全ての市民がまちの一員として、活動に主体的に参画し、まちの未来を切り拓くことに手応えを感じるまちづくりをめざします。また、知の拠点である高知工科大学と連携し、小・中・高の教育の充実をめざします。

基本理念

輝き・やすらぎ・賑わいを みんなで築くまちづくり

将来都市像

美しく豊かな自然に育まれ、共に支えあう 進化する自然共生文化都市・香美市

将来目標人口（平成38年）

24,400人

基本方針

輝き・やすらぎ・賑わいをみんなで築くまちづくり

将来都市像に基づいた、将来人口等の目標を実現するために、基本方針を次のとおり設定します。

- 基本方針1 まちのかたちを創る ／ 都市計画／市道等の整備／公共交通等
- 基本方針2 みどりを保つ ／ 消防・防災／水道／汚水／環境等／防犯
- 基本方針3 やすらぎを守る ／ 保健／医療／福祉
- 基本方針4 賑わいを興す ／ 農林業／商工業／観光
- 基本方針5 未来を拓く ／ 子育て／教育／人権
- 基本方針6 みんなで築く ／ 協働／行政／高知工科大学との連携

都市計画・公共交通

中心市街地

基本方針 1

まちのかたちを創る

美しい山や川、市街地、里（集落）など、広い市域内に多様な環境がある香美市。「進化する自然共生文化都市」の実現に向けて、地域ごとの特性や機能を活かしながら、先進的で調和のとれた土地利用を進めることが必要です。市街地では活性化に向けた事業等が行われていますが、人口減少による空き家の増加は、賑わいの消失を危惧するものです。移住希望者等の希望に応じた住宅供給や、地域医療等の充実、公共交通の充実を図るなどし、賑わいのあるまちをめざします。

高知テクノパーク（研究学園交流拠点）

政策

- 都市イメージの形成
- 交流・生活基盤の整備
- 市街地や集落の整備
- 計画的な土地利用の推進

安全・安心・環境

べふ峡温泉周辺のみどり

基本方針 2

みどりを保つ

約9割が森林である香美市の豊かなみどりを守ることは、地球環境の保全にもつながります。「災害に強い香美市」をめざして、防災行政無線の整備や、住宅の耐震化、家具の固定などを推進します。また、地域の防災力の向上に向けて、自主防災組織の活動に対する、きめ細かな支援を行い、安心・安全なまちづくりに向けて取り組みます。また、森林の育成・管理や物部川を守る市民活動等の振興を図る他、生活排水処理やごみ分別などの啓発活動を行い、環境保全に努めます。

物部川流域ふるさと交流推進協議会

政策

- 自然と共生する地域づくりの推進
- 水資源の安定的な確保と利用
- 自然資源の保全と活用の推進
- 安全・安心なまちづくり

福祉・医療

傾聴ボランティア養成講座

基本方針

3

やすらぎを守る

市民が前向きに健康づくりや自立した生活の継続に取り組むことができるよう、民間事業者との連携や市民ボランティアの育成など、行政・地域・事業者による元気な長寿社会を築く体制を作ります。福祉事務所や社会福祉協議会の充実とともに、見守りや支援体制の充実に努める他、介護予防の視点として高齢者の生きがいづくりや交流など、地域ぐるみの支え合い体制を構築します。また、医療サービスにおいては、関係機関と協議・連携しながら病院・診療所の配置の維持に努めます。

介護予防事業

政策

- 障害者福祉の充実
- 高齢者福祉の充実
- 保健、医療の充実
- 支えあいのまちづくり

産業

刃物まつりでの姉妹都市交流

基本方針

4

賑わいを興す

香美市の賑わいを創出するためには、交流によるまちづくりと、地域に根ざした産業の振興が必須です。シティセールスの推進や、姉妹都市交流の継続・充実によって活発で多彩な交流の促進を図ります。また、農林業では農産物ブランドの維持・向上、木材の利用拡大の推進、販路拡大に努め、UIターン者等も含めた新たな担い手の確保・育成にも取り組みます。観光振興の展開、雇用機会の確保、買い物環境の充実等、市民や訪れる人に魅力的な活力あるまちづくりを進めます。

盛んな農業

政策

- 地域産業の振興と就業機会確保の総合的な推進
- 観光の振興
- 商工業の振興
- 農林業の振興
- 交流によるまちづくりの推進

子育て・教育・人権

授業風景

基本方針 **5**

未来を拓く

まちづくりの一環である子育て支援対策として、長時間保育や0歳児保育など、保育サービスの拡充を図ります。また、就学前教育から大学教育までの各種機関やさまざまな文化的施設のある教育環境を活かし、大学や研究機関、地域住民との連携による教育活動や、健全育成、学力向上など、地域に根ざした教育の推進を図ります。その他、生涯学習・スポーツ活動の振興、人権意識の向上、男女共同参画社会の確立、地域文化の継承・育成にも取り組み、未来を拓く地域文化を創造します。

子育て支援センター

政策

- 地域文化の保護・継承と創造
- 人権尊重の地域づくりの推進
- 心豊かな生涯学習・生涯スポーツ活動の振興
- 未来を拓く子どもの育成
- 子育て支援の充実

行政・市民参画・大学連携

香北支所　物部支所

市役所庁舎

基本方針 **6**

みんなで築く

香美市の持続的発展を支えるため、合理的で効率的な行政サービスの推進、多様な行政需要に対応できる行政職員の育成や、広域連携で提供している公共サービスの推進を図ります。「広報香美」の発行やホームページなどによる情報公開、生涯学習・生涯スポーツ活動等を通じた地域間の相互理解の促進など、市民の参画機会の拡充に努めます。その他、地域産業の連携、大学・研究機関・地域住民の連携などを通じて、市民主体の地域づくり、市民と共に歩むまちづくりを推進します。

高知工科大学キャンパス

政策

- 高知工科大学と共に歩むまちづくりの推進
- 市民と共に歩むまちづくりの推進
- 行政職員の資質向上と適正配置
- 合理的、効率的行財政運営の推進

市議会

議場

市民目線に立つ開かれた議会へ

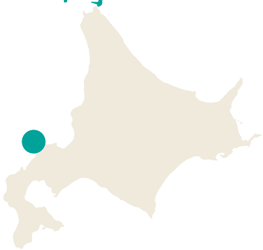
市議会では、住み良いまちづくりを進めるため、市民生活のさまざまな課題について話し合いを行っています。その他、香美市議会だよりの発行や議会報告会を行い、市議会活動や議案の議決結果などを市民の方に理解していただけるよう努めています。本会議の傍聴も、市政を身近に感じていただける機会となっています。20名の市議会議員は2万7千人の市民の中から選ばれた代表者であるという自覚を持ち、市民の目線に立った議会運営を行います。

議会報告会

香美市議会だより

姉妹都市交流

北海道 積丹（しゃこたん）町



よさこい鳴子踊りに惚れ込んだ北海道大学の学生たちが本場で踊りを披露するには、120名の大所帯が格安で宿泊できる施設が必要でした。そこで受入れを快諾したのが、旧土佐山田町です。平成4年に生まれた縁は、よさこいチーム「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」を結成するまでに至り、平成14年6月に晴れて姉妹都市提携がなされました。

小学生の交流

よさこいチーム
「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」

福井県 あわら市

当時石川県金沢市で開催された「高知県物産展」で、お互いの拠点駅であるJR駅の姉妹提携の話が縁となり、香美市の旧町村とあわら市の旧町で、昭和48年8月2日に姉妹都市提携を締結しました。同時に「芦原温泉駅」と「土佐山田駅」が姉妹駅提携をしています。合併後平成21年3月1日に再調印を行い、祭り参加などの相互交流を行っています。

平成21年3月1日の調印式

あわら市との交流「観月の夕べ」

米国フロリダ州 ラーゴ市

タンパ湾に面した大きなまちで、ベッドタウンとして栄えています。旧土佐山田町のライオンズクラブ会員が、国際感覚を持った青年を育てたいと姉妹都市締結の動きが進み、昭和44年7月11日旧土佐山田町役場議場にて調印式が行われました。平成4年には山田高校とラーゴ高校が姉妹校提携を結び、短期留学などの交流が続いています。

姉妹都市提携40周年記念の
調印式（平成22年2月5日）

姉妹都市提携45周年事業

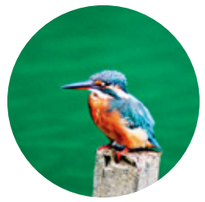
香美市 Information

市の木 … すぎ

昔から産業、生活に深く関わり、大空へまっすぐ伸び、緑の森となる「すぎ」は、市民の心の支えとなり、“やすらぎ”をあたえ、安定と躍進を表しています。

市の花 … あじさい

小さながくが寄り添い、大輪の花となる姿は、人の心を和ませるとともに香美市の“賑わい”を象徴し、発展を表しています。



市の鳥 … かわせみ

清流をすみかとする鳥で、気品と清涼感を感じさせる姿は香美市の“輝き”を象徴し、豊かな自然と良好な環境を表しています。

市 章

「カミ」の文字をモチーフに、豊かな自然と未来に向かって躍動する「人」の姿を併せ、輝き・やすらぎ・賑わいをみんなで築くまちづくりを象徴的に表現しています。

※香美市役所本庁舎前に設置（平成 29 年 2 月）

香美市民憲章

前文

私たちの香美市は、美しく、豊かな自然に育まれています。
先人が築き上げた尊い文化や伝統を受け継ぎ、人々が愛と勇気を心に持ち、
誰もが幸せを感じられるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

本文

1、豊かな自然を守り、美しいふるさとを未来に届けましょう。
1、互いに思いやり、ささえあう、心安らぐまちにしましょう。
1、歴史に学び、伝統を守り、高め、文化の香りあふれるまちにしましょう。
1、子どもたちの笑い声は宝物、みんなで見守り育てましょう。
1、感謝の気持ちを大切に、元気で働き、仲よく住みよいまちにしましょう。

（平成 24 年 4 月 1 日制定）

香美市市勢要覧

発行：香美市役所
〒782-8501　高知県香美市土佐山田町宝町 1 丁目 2 番 1 号
TEL：0887-53-3111
FAX：0887-53-5958
http://www.city.kami.kochi.jp/

平成 29 年 3 月作成